

PubteX「BOOKTRAIL」開始

R F I D 利活用呼びかけ 書店早期導入で20%割引

丸紅や大手出版社3社などが出資するPubteXがこのほど、書籍トレーサビリティシステム「BOOKTRAIL」の商用サービスを開始した。出版界の構造改革を目指し、書店や出版社にRFIDの利活用を呼びかけていく。書店の初期費用は1店舗当たり100万円以上だが、早期の普及を図るため2027年3月までに導入する書店には、早期導入割引で「20%オフ」とする。該当期間に多店舗導入する書店には追加支援していく考えがある。

今年中に100店舗目標

BOOKTRAILは出版界全体の最適化を目指すIoTソリューション事業のひとつとして取り組まれてきた。

2023年8月以降、講談社、小学館、集英社、KADOKAWAがコミックスなどにRFIDを装着し、同年9月からは有隣堂と大垣書店がそのパイロット店として実証実験を開始。以降、ブックファースト、アニメイト、三省堂書店の計5法人・9店舗に拡大している。今年2月には一迅社がRFIDを装着し始め、丸善ジュンク堂書店のお茶の水店（東京）も参加することが決まっている。

書店では、①万引きの防止、②在庫の可視化、③棚別分析、④棚卸・入出庫検品業務の効率化などで効果が期待されている。有隣堂伊勢佐木町本店（神奈川）では、23年9月から1年間で盗難冊数が前年同期比85・5%減、金額ベースで同84・5%減と改善された。

PubteXによると、着荷・検品・販売・返品の詳細、どのレジで購入されたかもリアルタイムで分かる。業務オペレーションも改善でき、棚・曜日・時間帯別の商品動向も分析できるという。

PubteXが書店に提供する「防犯ゲート」

「ハンディリーダー」「卓上リーダー」の3種。防犯ゲートの価格は100万円程度（工事費込み）で、早期導入費は入口が1カ所の店舗で百数十万円。

PubteXの渡辺順社長は「賛同いただける書店様に1店でも多く導入してほしい」とし、早期導入割引のほか、多店舗への導入を短期間で進める書店には追加の支援も検討していく。

今年中には100店舗に拡大するという目標を掲げているが、「それは多くの書店に導入するための基盤をつくるという意味。チェーン店への水平展開を図ってもらえる

目安の数字」という。

さらにRFIDの導入に際しては、「機材を設置した後に操作方法、決済時のオペレーションを決め、分析してマーケティングに活かせるまでには時間がかかる。書店が自走してもらえようようにサポートしていきます」と話す。

また併行して、出版社へもRFIDの装着を呼びかけていく。今年1月からは本に挟み込む「しおり型」から表3に貼付する「ラベルシール型」に移行している。それに

対応する製本会社は4月までに10社になる見通し。

現在、RFIDタグ単体の価格は10円前後だという。

